

ついに、やっと、 7か月越しの初登校



日本の感染者激減のニュースにはさすがに驚き、不思議で、さらには羨ましく外から眺めています。タイは日本より早い時期からデルタ株に苦しみ、ピークアウトしてからも日本に比べればやきもきするくらいゆるやかな減少です。

ワクチン接種は十二歳まで引き下げられ、規制は段階的に緩和されています。しかし、外食ができるようになってからも、プーチン観光に行ってみても、気持ちはどこか晴れません。経済活動だけが規制緩和され、学校は開かない、という状況が二か月も続いていたからです。

それが今週になってやっとやっと、学校が再開することに。在タイ七か月にして我が子は三人ともついに初登校を果たしました。

不安と期待

実は学校再開の動きが報じられるようになってから、今さら学校に行くのが今週になってやっとやっと、学校が再開することに。在タイ七か月にして我が子は三人ともついに初登校を果たしました。

高校生男子同士の初対面は、最初こそ気恥ずかしさがあったようですが、会ってしまえば想像通り大丈夫。バスケットもして行って、汗びっしょりになって帰ってきました。その日の食器は長男が全部洗ってくれて、やたらと饒舌。ほっとした一っついでという表情。大人でもなく子供でもなく、面白い。もっと早く自分で誘えばよかったのに。でもその一歩が踏み出せない気分の時もありますよね。

実際に登校する段になって面倒だったのは小学四年生の末っ子。渋滞があるバンコクではスクールのバスの出発が六時四十分なのですが、その早い出発時刻までに朝ごはんが食べられるのか心配したようで、初登校前夜に朝食用おにぎりを自分で作っていました。これで安心して眠れるね、と思っていたら彼の目覚ましが鳴ったのが夜中の三時半！ いやいや、三時半から起きて何するのよ。二度寝し

くのが億劫というか、恥ずかしいというか、こわいというか、そんな気持ちの子供たちからぼつり、ぼつりと出てくるようになっていました。中でも高校一年生の長男が不安定な様子。

長男と同じ学年にちょうど日本人の男の子が編入してきていたので、その子を誘って遊びに行けば？ と促してみたのですが、画面越しに顔を見るくらいで、直接話したこともない相手。「別にいいよ」「だいたい遊んで何よ？」と言う長男。まあ、私が息子でもそう言いそうです。

そこで、私が自分の友達を作りたいという名目で、その男の子のお母さんをお茶にお誘いしてみました。よかったです。息子さんも一緒に。ぜひ二人で来たいとお返事ももらいました。

「えー、お茶って何よ？」と長男は言いながらも「じゃあ少ししたら一緒にバスケットに行こうかな」とか、「雑巾がけしておくか」とか、とにかくソワソワ。

て私が寝坊する典型的なパターンなので、もうやめてほしいです。そして初登校を終えて疲れて眠りについたその日の夜中にも、迷惑なことに三時半の目覚ましでセットされればなし。しかも分散登校だから今日は行きません！

この七か月、何かを成し遂げたとか、結果に残るようなことは何もありません。それでも兄弟三人がべちゃくちゃとうるさいくらいにおしゃべりしながら、けんかしながら、体も心も健康に過ごせました。ただやり過ぎた、ということを抱けてもいいのかなと思っています。



文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。「ブラ
ジルの手しごと」
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と
ワークショップの店「メルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。「ゆ
らゆらゆれる北欧風手作りモビー
ル」(ネコパブリッシング)を監修。